SHISHIONE SITE · SHISHIGAKI SITE

# 鹿尾根遺跡•鹿垣遺跡

一平成9年度担い手育成基盤整備事業茅野東部地区発掘調査報告書

1998年3月

茅野市教育委員会

SHISHIONE SITE · SHISHIGAKI SITE

# 鹿尾根遺跡•鹿垣遺跡

一一平成9年度担い手育成基盤整備事業茅野東部地区発掘調査報告書──

1998年3月

茅野市教育委員会

### はじめに

茅野市には300以上もの遺跡が発見されていますが、その多くが縄文時代の中でも中期と呼ばれる時期のものです。それらの遺跡の多くは八ケ岳山麓の中でも標高1,000m前後に位置しており、その代表的な遺跡が国の特別史跡に指定されている豊平地区の尖石遺跡です。

その南に位置する泉野地区は、発見されている遺跡も少なく、近年の圃場整備事業で柳川以北については大きな成果をあげているものの、原村に接する柳川以南については、10ほどの遺跡が確認されているものの、ほとんどの遺跡が未調査で、余りよく知られていませんでした。

今回調査を行った鹿尾根遺跡は、担い手育成基盤整備事業茅野東部地区の計画が明らかになった段階で、地元の人からの申し出で確認された遺跡です。

教育委員会ではこの事業に伴う造成工事により遺跡が消滅してしまうのを避けるため 長野県教育委員会、長野県地方事務所土地改良課と協議を重ね、国及び県の補助金を得 て調査することになりました。

発掘調査の結果、縄文時代の住居址の他、多くの人々の痕跡を発見するなど、昨年試掘調査を行った時の予想をはるかに上回る成果をあげることができました。

また、鹿垣遺跡は遺跡として登録はされているものの、調査をしたことがなく、性格のよく分からない遺跡でした。調査の結果、住居址などの遺構は発見できませんでしたが、縄文土器片などを採集することができました。

今後も地域の方とともに、埋蔵文化財の保護を通して、地域の歴史を解明していく所存でありますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

最後に、この事業の実施にあたってご指導いただいた文化庁、長野県教育委員会、調査に参加された関係者の皆様に対し、深甚なる感謝を申し上げます。

平成10年3月

茅野市教育委員会 教育長 両角 徹郎

## 例言・凡例

- 1. 本書は、平成9年度担い手育成基盤整備事業茅野東部地区に係る鹿尾根遺跡発掘調査報告書である。な お、本年度別に発掘調査を行った鹿垣遺跡の報告も併せて行っている。
- 2. 発掘調査は、国庫及び県費の補助を受け、茅野市教育委員会が実施した。
- 3. 鹿尾根遺跡の発掘調査は、平成9年5月19日から7月7日まで行い、整理作業は、平成9年11月8日か ら平成10年3月24日まで行った。

鹿垣遺跡の発掘調査は、平成9年11月10日から11月11日まで行った。

4. 出土品の整理及び報告書の作成は、尖石考古館で実施した。 本報告書に係る出土品・諸記録は、尖石考古館で保管している。

5. 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会文化財課が実施した。組織は以下の通りである。

調査主体者

両角徹郎 (教育長)

事 務 局

宮下安雄(教育次長)

文化財課

矢嶋秀一(課長) 鵜飼幸雄(係長) 守矢昌文 小林深志(兼) 大谷勝己

小池岳史 功刀 司 百瀬一郎 小林健治 柳川英司 大月三千代

河西克造(県埋蔵文化財センター派遣職員)

調査担当

鹿尾根遺跡担当 小林深志(尖石考古館学芸員)

鹿垣遺跡担当 小林健治(文化財課学芸員)

調查補助員

岡 和宣

発掘調査・整理作業協力者

大宮 文 北原きよゑ 小平長茂 小平三行 小平義市 五味一郎 五味計佐雄

田中 進 長田 真 野沢みさ子 萩原光哉 福田幸宗 目黒恵子 森 圭子

博物館実習生

渡辺信子(専修大学)

## 鹿尾根遺跡

## 第1章 遺跡の位置

鹿尾根遺跡は茅野市泉野にあり、八ヶ岳から流れ出す柳川の南1,200mに位置する。標高は1,095mから1,100mを測る。茅野市内から八ヶ岳方面へ向かい、中道の集落を抜け赤嶽神社を通り過ぎたところで南に向かうとそこに本遺跡がある。遺跡から南へ約250mで原村と接する。

本遺跡の位置する柳川以南は大きな河川がないため、起伏は少ない。遺跡のすぐ北には東西に走る小さな 水路があるが、これらは江戸時代に開発された堰である。

本遺跡の位置する尾根は畑として利用されており、南北にある一段低い浅い谷は水田として利用されている。一段低い谷状地形となっているところとの比高差は、それほど大きくはなく2m程である。

鹿尾根遺跡は、当地区が担い手育成基盤整備事業茅野東部地区として、造成工事の計画が上がった後に、 地域の方から遺跡ではないかとの指摘を受け、市文化財課職員が現地の畑を踏査し、黒曜石を数片採集した ために新しく遺跡に登録したものである。

平成8年度には、遺跡とした範囲のほぼ全面にわたって遺構の分布と密度を確認する発掘調査を行った。その時の調査の結果でも、土坑と考えられる落ち込みが数ケ所で検出されただけであり、遺物の出土もやはり土器片や黒曜石が数片だけであったため、全面の調査を行っても、それほどの期間は要しないのではないかと考えられた。

## 第II章 調査の方法と経過

調査は5月19日から重機により表土層を剝ぐことから開始した。見学に来た地元の方から客土置き場とするため、掘削を行ったと聞いた西側を廃土置き場と定め、東から表土層を剝いでいった。

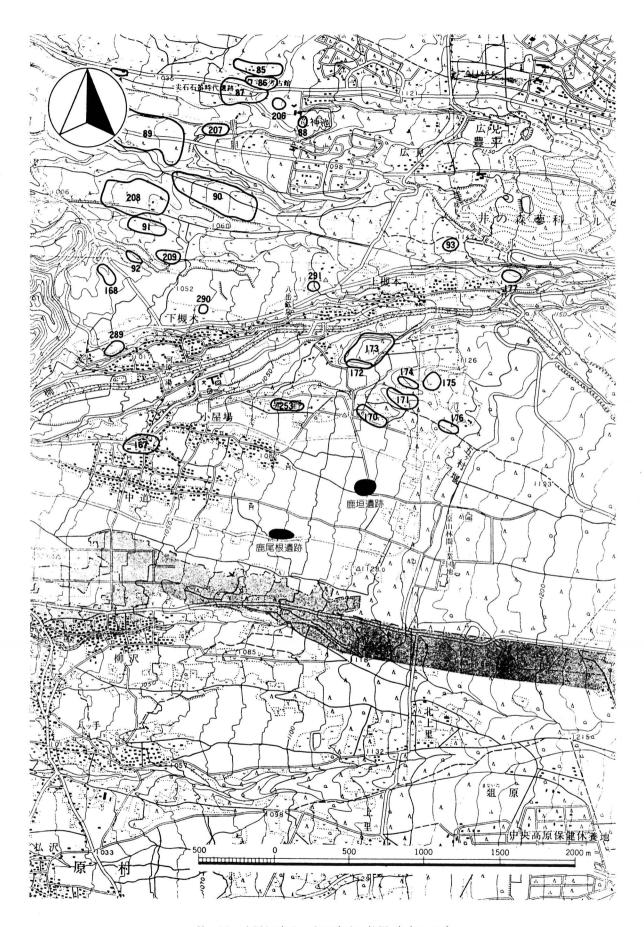
3月に行った試掘調査では、土坑を幾つか検出しただけであったが、その他にも大きな掘り込みの中から 焼土が検出され、住居址になるのではないかと考えられるものがあるなど、予想以上の遺構の検出状況であ った。また、これらの遺構の周辺には、倒木痕になると考えられるロームマウンドが多数あり、平面プラン の把握を難しくさせた。

作業員が入り遺構の検出を開始したのは5月23日からである。遺構の検出作業は、東側から順次行っていった。前述のように、倒木痕などの他、耕作による畝、さらに産業廃棄物を埋めた大きな穴などのため、遺構の検出作業にも多くの日数を要した。

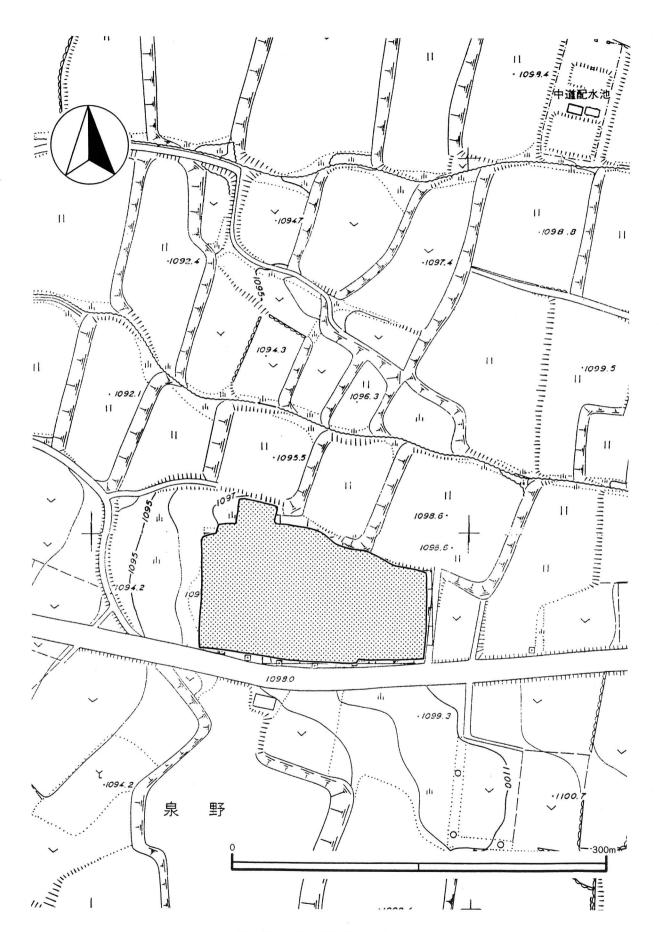
遺構の検出作業に合わせて、5月29日には業者委託により基準杭の設置とグリッド設定、水準測量を行った。調査区は遺跡内を5m四方に区切り、南西隅を基点に x 軸をアルファベット、 y 軸を数字とし、A-1のように呼称した。

遺構の掘り下げは、6月に入ってから開始した。遺構の掘り下げは、廃土の処理を考え、南西隅から行った。また、遺構検出時に出土地点に置いてあった遺物の回収も同時に行った。

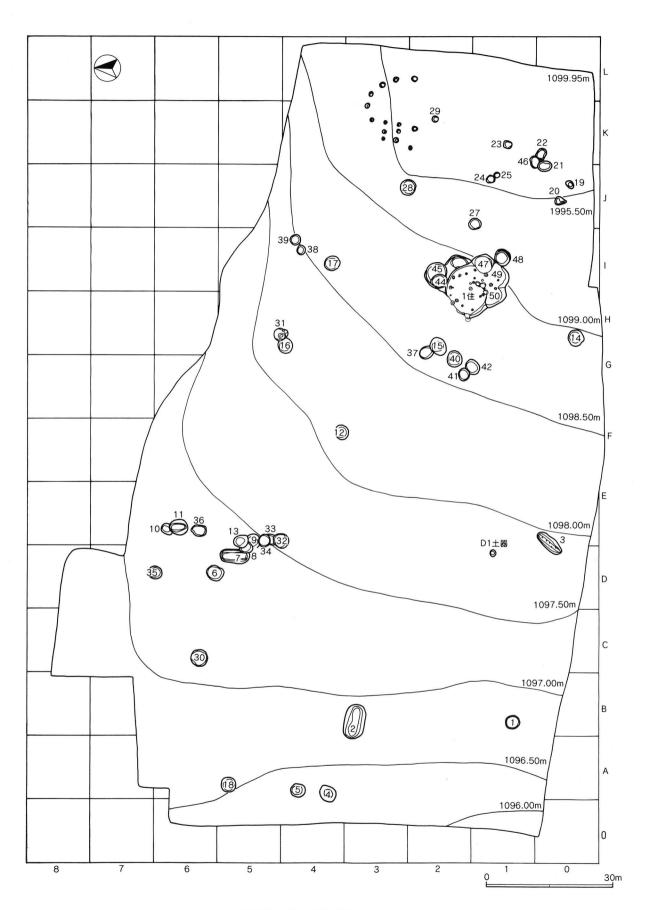
土坑の幾つかは陥し穴になるようで、大きく深い。その他の土坑も大きいものが多い。時期が窺える遺物



第1図 鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡の位置 (1/25,000)



第2図 地形と発掘区域 (1/1,000)



第3図 調査区全体図 (1/300)

を出土する遺構は少ないが、縄文時代後期の土器片を出土する土坑も確認された。そうした土坑の土層断面 図、平面図の作成、写真撮影は6月6日から開始した。

ちょうど梅雨の時期にあたり、雨も多かったが、雨上がりの度に遺構の検出作業を行うと、さらに幾つか が検出できるなど、予想をはるかに上回る遺構が検出されていった。

6月18日からは住居址になると考えられる遺構の掘り下げに入った。遺構の検出当初、焼土が検出されていることや、平面プランが不整形であることから、掘り込みが浅いのではないかと考えていたが、焼土は覆土の上面にあるもので、予想以上に深くなり、遺物も出土してきた。また、平面プランが不整形となっていたのは、土坑や倒木痕が重複していたためであった。このため、遺構の掘り下げに多くの時間を要した。

現地での発掘調査は7月7日まで行い、当日と翌日に行った機材の撤収作業で鹿尾根遺跡の現地での作業をすべて終了した。

## 第Ⅲ章 遺構と遺物

今年度検出した遺構は、住居址が2軒、土坑が48基、独立土器1基である。

#### 1. 住居址

住居址は2軒が検出された。2号住居址については柱穴だけの検出で、竪穴の掘り込みや炉址はなく、遺物の出土もないため、時期は明らかにできない。

Ⅰ号住居址(第4回、図版2-1~3)

H・I-1・2 区で検出された。表土層除去後、かなり大きな掘り込みが見られ、竪穴住居址になるのではないかと考えていたが、平面形が不整形であることや遺構確認面で焼土が見られたことから、耕作などにより、ほとんどが破壊されているのではないかと考え、土坑の掘り下げを優先して行っていた。他の遺構の調査がほば終了し、本址の掘り下げに入ったところ、遺構確認面で検出された焼土は覆土上層にあるもので、意外と遺存状態が良く、遺物の出土も多く見られた。しかし、住居址に重複する土坑や倒木痕が多数あり、似たような覆土であることから、新旧関係を見極めるのが難しい状態であったため、掘り下げに時間を要した。

土層観察により新旧関係の明らかになったものには本址と50号土坑があるが、本址の方が新しい。その他、 倒木痕との新旧関係では倒木痕の方が新しいが、これは本遺跡における切り合い関係にある他の遺構と倒木 痕についても言えることである。

遺構が幾つも重複しており、正確な規模は不明であるが、遺存状態のよい北東壁から南西壁までが396cmであることから、径が4m前後の円形を呈していたものと考えられる。遺構の深さは、最も深いところで55cmほどである。

炉はほぼ中央に地床炉があるが、南西の壁際にも焼土が見られる。

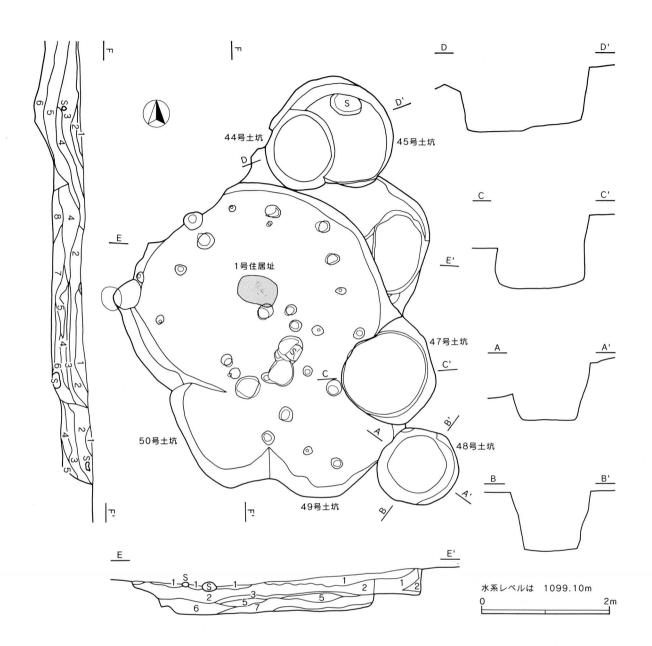
柱穴は深さが8cmから48cmまでのものが二十数個見られるが、主柱穴になるような大きなものは見られない。

遺物は覆土の上層から出土するが、床面直上から床面上15cmくらいまでが最も遺物の出土量も多く、大型の破片が多い。また、住居址の南西からは、黒曜石のチップが多量に出土している。

本址の時期は、出土した遺物から縄文時代の中期中葉に位置すると考えられる。

2号住居址(第5図)

K・L-2・3区で検出された。周辺がかなり削平されているようで、住居址の掘り込み、炉址などは検出で



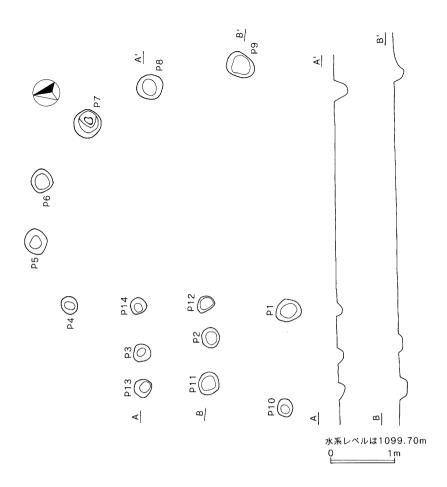
第4図 1号住居址 (1/60)・土坑 (1) (1/60)

きなかったが、柱穴が円形に回っていることから住居址とした。北西方向に柱穴が張り出しており、柄鏡型の住居であった可能性がある。そうなると、遺物の出土がなく時期は明らかでないが、縄文時代中期末から後期にかけての時期を与えられようか。

#### 2. 土坑 (第4、6~13図、図版3~12-2)

本遺跡からは48基の土坑が検出された。一括土器が出土し、時期が明らかになったものは、1号土坑だけで、後期前半の土器片が出土している。また、30号土坑からは、赤色塗彩された玦状耳飾の半欠品が出土していることから、やはり縄文時代の後期に位置するものと思われる。

本遺跡で特徴的な土坑として、断面形が寸胴形のものがある。 5 · 6 · 12 · 14 · 15 · 16 · 17 · 18 · 30 · 31 · 32 · 34 · 37 · 40 · 41 · 42 · 44 · 45 · 46 · 47 · 48 · 50号土坑の22基が検出されている。平面形態はほぼ円形で、



第5図 2号住居址 (1/60)

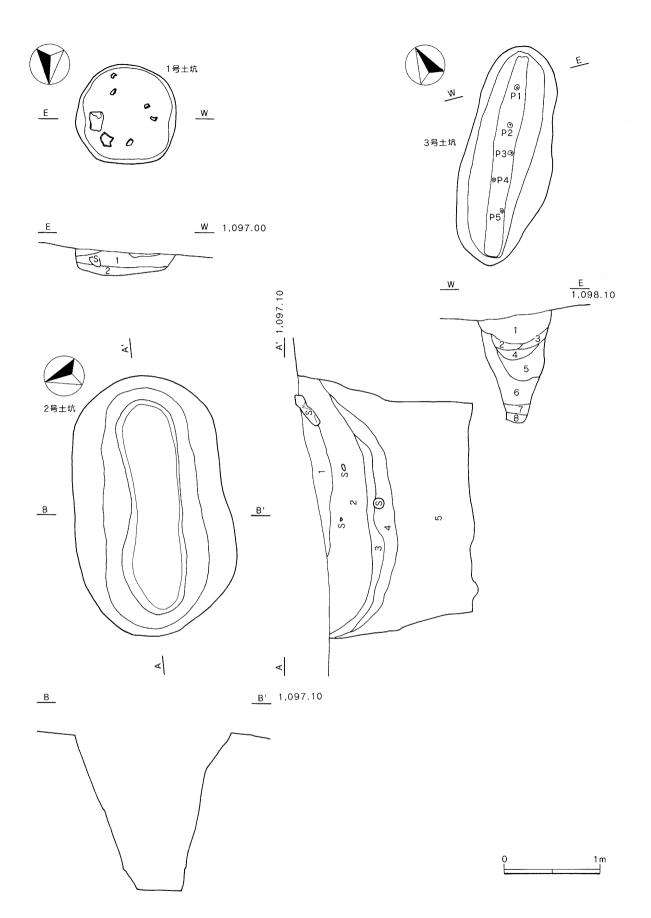
径が最大で180cm、最低でも98cmを測る大型のものである。深さは30cmから115cmと幅がある。中には47号土坑のようにややオーバーハングしているものも見られる。出土している遺物の多くは縄文土器の破片で、時期を明らかにできるものは少ないが、30号土坑のように赤色塗彩された土製玦状耳飾の半欠品が出土しているものや、17号土坑のように径30cmを超える礫が底面近くから出土しているものがあり、墓壙として位置付けられるものが多いと思われる。また、14号土坑のように覆土の中層に焼土のあるものもある。4号土坑のように、断面形が椀形になる土坑もこれに含めてよいかもしれない。

陥し穴と考えられる土坑は2・3・7・11号土坑の4基である。これらは規模や形態、長軸方向がそれぞれ異なっている他、分布にも規則性がないことから、異なった時期のものではないかと思われる。

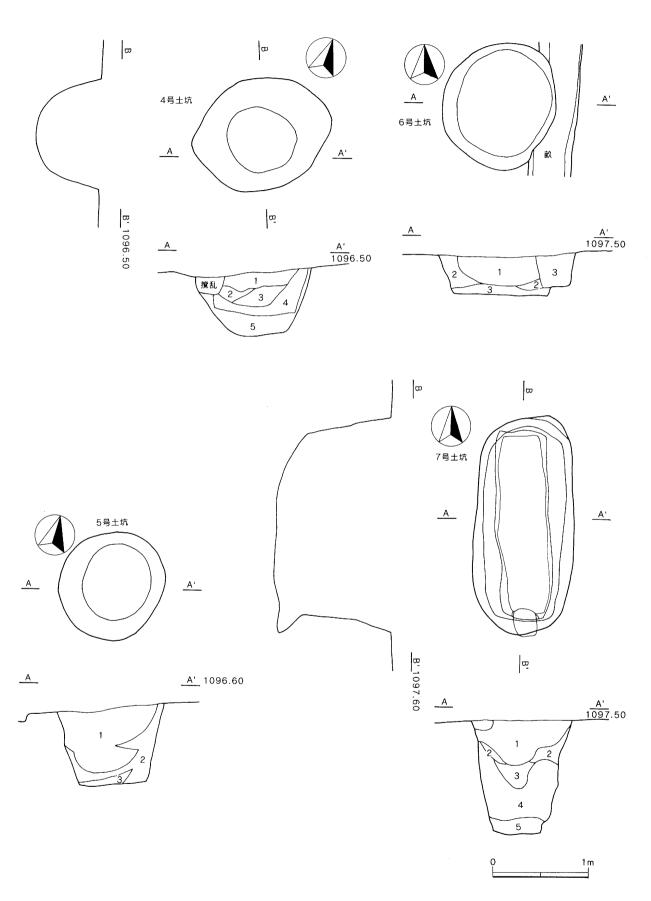
3号土坑は坑底の小ピットの先端がかなり尖ったものであり、本市に隣接する原村で検出されている陥し 穴に類似している。

墓壙と考えられる土坑と、陥し穴と考えられる土坑を除くと、ほとんどが断面形が皿状で浅いものである。 断面が寸胴形のものとの切り合い関係では、すべて皿状のものが新しい。

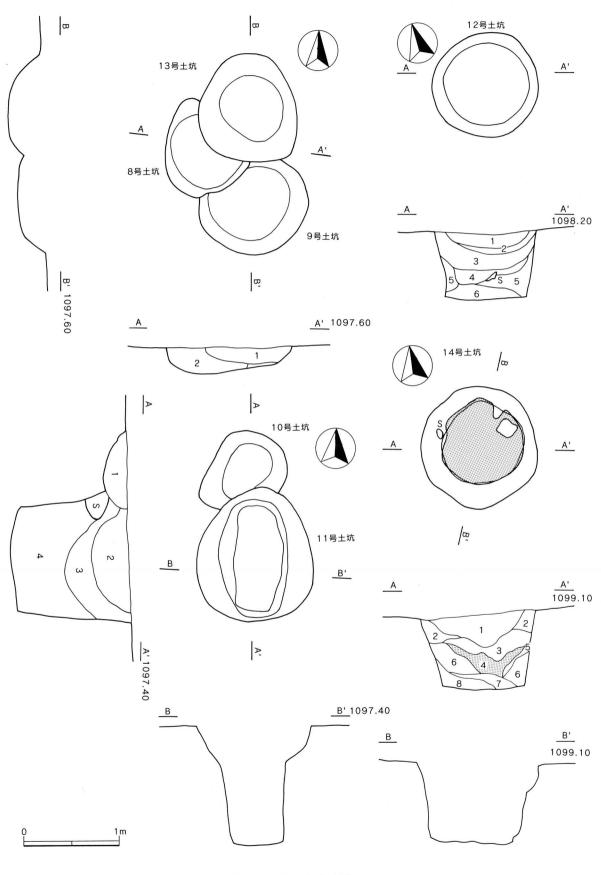
本遺跡でもっとも新しいと考えられる土坑は13号土坑(第8図、図版5-2)で、陶磁器や鉄片が出土している。



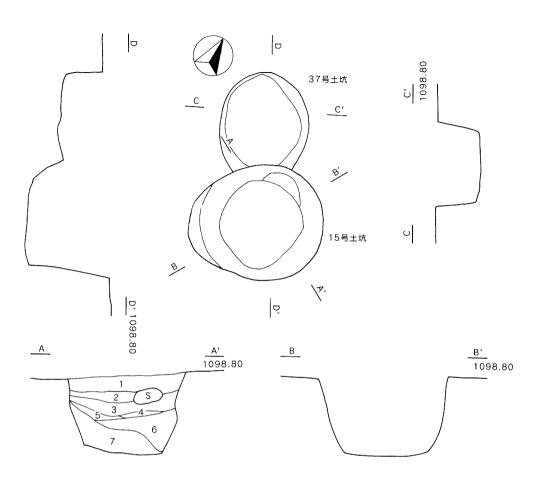
第6図 土坑 (2) (1/40)

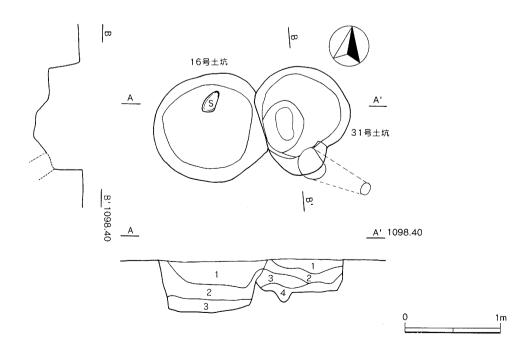


第7図 土坑 (3) (1/40)

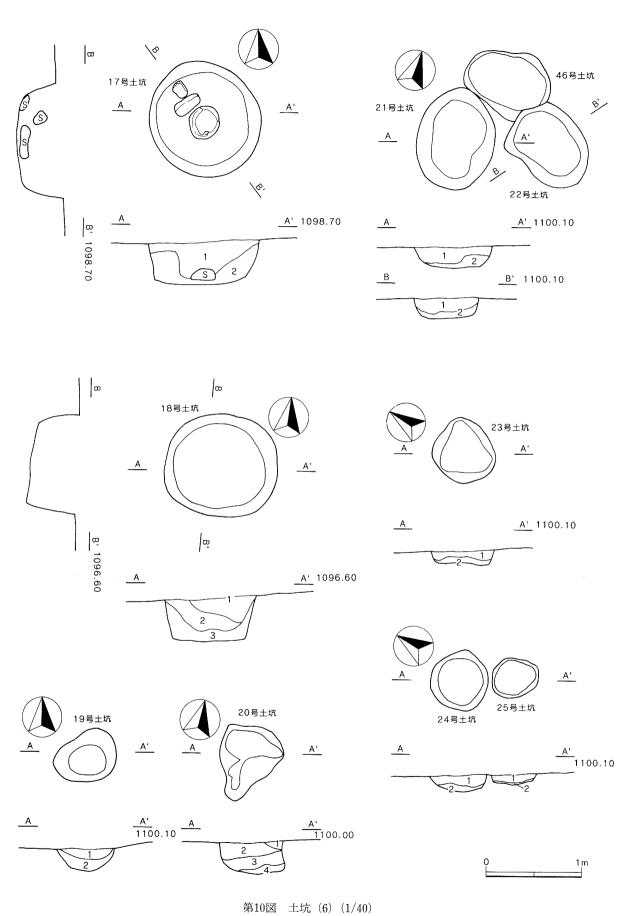


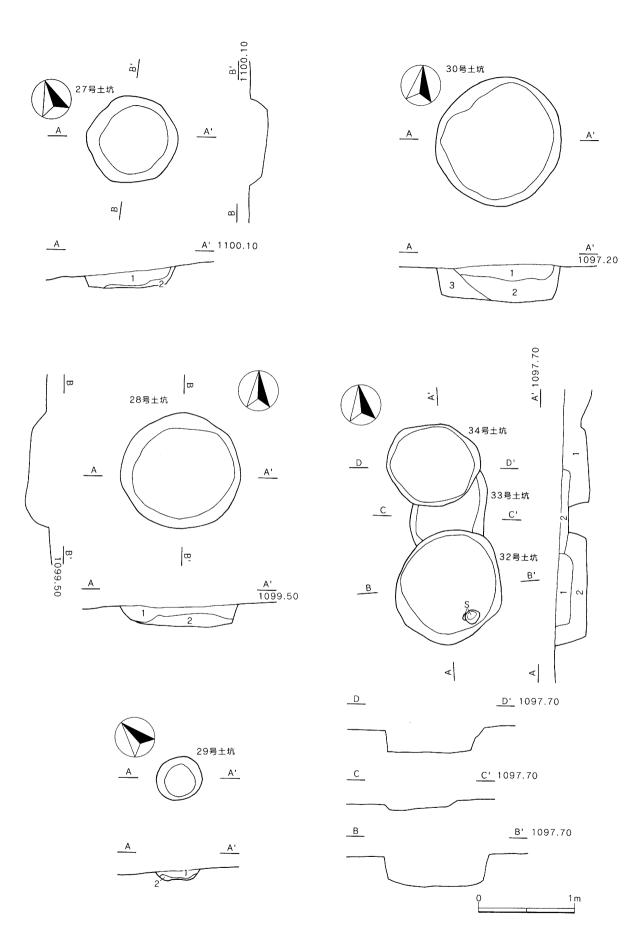
第8図 土坑 (4) (1/40)



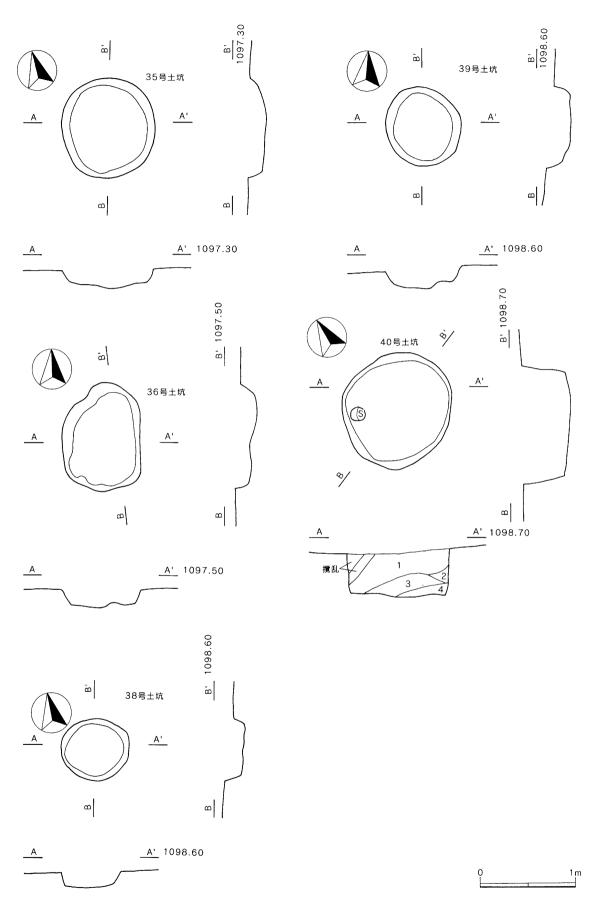


第9図 土坑 (5) (1/40)

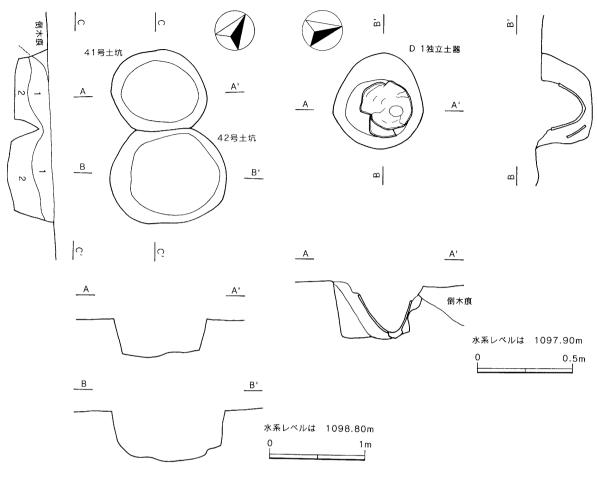




第11図 土坑 (7) (1/40)



第12図 土坑 (8) (1/40)



第13図 土坑 (9) (1/40)・独立土器 (1/20)

#### 3. 独立土器 (第13図、図版12-3)

D-1 区で検出された。径50cmほどの掘り込みに縄文時代後期初頭の称名寺式土器の一括土器が正位で出土 している。周辺の精査を行っても、住居址の柱穴となるような他の遺構を検出できなかったため、独立土器 とした。

## 第IV章 まとめ

本遺跡は、発見時、前年度調査時とも遺物の採集は少なく、それほど大きな遺跡としては考えていなかった。ところが、調査を開始してみると、竪穴住居址になりそうな大きな掘り込みの他、土坑が多数検出された。

遺物の出土は住居址出土のものを含めても、コンテナにして3箱程度と、それほど多くはなかったが、50 基近い土坑の調査と、住居址の予想以上の深さにより調査は予定の期間をオーバーした。

遺跡の南を東西に走る道路があるが、その南側にも遺跡が広がっていたと思われるが、耕作による削平によりかなりの段差が付いており、破壊されているものと考えられる。

茅野市の泉野地区も、柳川の北については圃場整備に伴う発掘調査で、考古学的知見が得られてきたが、 原村に接した南側については幾つかの遺跡が知られているだけで、本格的な調査を行った遺跡は少ない。そ のような中で、本遺跡が新発見の遺跡として登録され、破壊の前に調査されたことは、今後の泉野地区の柳 川以南の遺跡を考える中で、重要な位置を占めて来るであろう。 第1表 土坑一覧表 (1)

并	1 3 7 10 1 6 1 6 1 7 5 1	上部 7 10 M 20 M 3 M は 回体であるが、被合せず。	<ul><li>帝 昭し穴。原面は鼈筆の</li><li>今 よったくなれる。</li><li>4 個</li></ul>	。 隔し穴。坑原に小ヒット5。 ピットの除めば、 1が23番、2が27番、3が 27番、4が24番、5が25 am		<b>B</b>	粒 東側に耕作による撹乱 が入る		0	1	。 11号土坑と重複。本址 が新	- 陥し穴	6				31号土坑と重複。本址	が制 抗廃付近に 243			99 Ea							1 中
十四十四	1.7.7.1 2.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	ᅜᄱᇄᄀᆸᇄ		5層に分層できる。暗褐色土と黒褐色土が互層となる。 下層ほどロームブロックの混入が多い。	5層に分層できる。	3層に分層できる。1~2mの炭化物が混じる暗褐色土と、ローム粒子の混じる暗褐色土が互層となるが、分層が難しい	3層に分層できる。炭化物を含む暗褐色土と、ローム粒子の混じる暗褐色土が互層となるが、分層が難しい	5層に分層が可能。下層ほどロームブロックやローム粒子が多い。	暗褐色土。ローム粒子やロームブロックが多く混じる 炭化物の混入も見られる。		暗褐色土。ローム粒子、ロームブロックの混入が多い。	3層に分層できる。いずれも暗褐色土で、下層ほどローム粒子の混えれるい	「AT ンロンストラント フェール 単独 できる。下層ほどローム粒子のほえが多い。	暗褐色土。2cm大のロームブロックが深じる。	8層に分層できる。中段の4層は焼土層である。	7層に分層できる。上層に礫	3層に分層できる。		3層に分層できる。下層ほどローム粒子の混入が多い	2層に分層できる。1層は黒褐色土。2層は暗褐色土。	4層に分層できる。1・2・4層は暗褐色土、3層は黒褐色土。ローム粒子の多い層と少ない層が互層となっている。	2層に分層できる。どちらも暗褐色土であるが、上層にはまた生まだ。	は及いに対い、低しる。 2層に分層できる。どちらも暗褐色土であるが、上層に		2層に分層できる。どちらも暗褐色土であるが、上層に  は嵌化物が違いる。	2層に分層できる。1層は黒褐色土、2層は暗褐色土。	2層に分層できる。1層は暗褐色十、2層は暗褐色十。	
	器		組文後期(堀ノ内)土器 縄文後期 片・黒曜石									縄文中期後半(曽利V)十器片		陶磁器														
雪れ回			N-78-W	N-38-E				N-3-E				N-2-E																
れ 財	2.2	1	182	120	73	87	45	120	27	30	25	125	70	35	83	88	22	56	20	24	33	22	22		16	18	12	-
底狗	92	1	20	21	89	70	97	20			43	20	98	29	85	88	88	96	06	32	09	22	20	-	54	47	37	F
单	95		216	212	71	80	110	188	78	84	65	110	06	70	87	92	94	86	97	40	65	80	75	-	54	49	42	H
本領	103		167	95	118	106	117	104			80	122	110	103	122	122	115	114	108	55	29	80	89		09	61	42	+
当 並	103		275	233	150	114	132	228	97	110	97	142	112	113	128	143		124	118	29	08	107	95		75	63	48	-
断面形	三		短軸はソ字形	短軸は∨字形	椀形	4 調光	寸胴形	短軸はY字形	目形	目形	目形	短軸はY字形	寸胴形	目形	ナ胴形	寸胴形	<b>小</b>	寸胴形	寸胴形	目形	月 光	目形	目形		1	目形	目形	
平面形	田形		4 楕円形	<b>在</b> 元	楕円形	田 出	田米	隅丸長方形	楕円形	楕円形	楕円形	桶円形	田影		田形		4 日形	田形			<b>不整</b> 形	楕円形	楕円形		→ 階 形		光	
位置	B - 1		В-3.	D · E - 0	0 · A-4	A -4	D -5 · 6	D -5	D · E -5	D · E -5	E-6	9-I	F-3·4	D · E -5	0-H	Ξ	H -4 · 5	∳- I	A-5	J -0	J -0	К • Ј -0	K -0		K - 1	J-1	J -1	
番号	-		8	က	4	വ	9	7	8	6	10	11	12	13	14	12	16	17	18	19	70	21	22	6	23	24	25	26

第1表 土坑一覧表 (2)

〇龍歩					16号土坑と重複。本址	が古。坑底にピット。	伴うか不明。南東にア	ナクマの果 ( ', ) 37年十七 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	コー指の単核。 全組 エット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	から、小さく法い土元	が重複している可能性	9	32号・34号土坑と重	複。本址 が新	33号土坑と重複。本址	тп		坑底は凹凸がある				坑底は凹凸がある					1 日本子子 4 6 6 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5		tktu	45号土坑と重複。新旧		44号土坑と重複。新旧	Н				1号住居址と重複。新旧		1号住居址と重複。新旧	H
	2層に分層できる。どちらも暗褐色土であるが、上層には形化物が短じる。	Sexton moves と関は黒色土、下層は暗褐色土。どの間に対層できる。上層は黒色土、下層は暗褐色土。どれられてロームがコック、ローム対子が多く混じる	2層に分層できる。上層は黒色土、下層は暗褐色土。下層はローム粒子が多く混じる	3層に分層できる。下層ほどロームブロックやローム粒子が多い	4層に分層できる。 16-	254	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	7 S	00	12,7	<b>1</b> 342 €	あり	§ 32	横。	334	が古		坑原		暗褐色土の単一層。ローム粒子、ロームブロックが混じ		9。ローム粒子、ロームブロックの他、	炭化物が混じる。	4層に分層できる。1・2・4層は暗褐色土、3層は黒褐色	土で、いずれもローム粒子の混入が多い。	2層に分層できる。1層は黒褐色土、2層は暗褐色土。下層はロールギュ ロールプロックの第1 お名い	۲	2個に分個 C さる。1個は黒梅巴工、7個は「梅巴工。 L 「Milk 層はローム粒子、ロームブロックの混入が多い。	久番	45+	不明	444					11	不明	事 ]	
時期	2	7 5	2 =	71 3	4															曲	No	出		4	#1	2)	P 0	. <u>M</u>												
田土瀬物				赤色塗彩の土製決状耳節															1																					
軸方向																																								
が影	22	25	12	40	35			ŭ	33				10		30		18	23	20	18		25		20		36	L	06		100		92		11	115	98			20	
底短	71	96	32	120	82			00	100				62		80		80	62	80	55		63		103		63	10	68		06			•	53	122	135				
原表	71	107	32	120	98			100	ent				77	-	88		92	26		29		72		112		80	6	ب د		103		145		83	132	138				1
平短	06	122	46	130				:	ij						87		98	82	94	99		78		112		88	0	 XX		110				72	143	122				
出	96	125	20	135	105			,	120						86		105	110		71		85		125		100	,	721		130		180		92	150	128				
断面形	目形	目形	目形	4 圖 形	寸胴形			1	4 憲 4				目形		寸胴形		目形	目形	寸胴形	目形		目形		寸胴形		寸胴形	7 11 11	ム電力		4 語 歩		4 間形		目形	寸胴形	4 胴形			寸調形	
平面形	田將	田米	田影	田米	田形				備五杉				楕円形		田形		田形	不整形	楕円形	田形		楕円形		田馬	_	精円形	ì	至 至		五	-	田影		楕円形	田形					
位置	I · J-1 · 2	J-2·3	K -2	9-D	H-4·5				D · E -4 · 5				E-5		D · E -5		7	E-6	G · H-2	1 -4		1 -4		G · H-2		Z-5		G-1 · 2		1 -2	ı	I -2		J · K-0 · 1	I -1	I -1			H · I -1	
每	27	28	29	30	31			9	32				33		34		35	36	37	38		39		40		41	9	42	43	44		45		46	47	48	49		20	

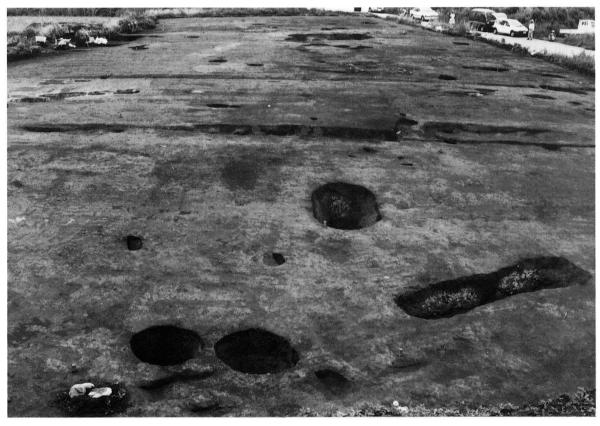
50号土坑の遺物を含む。 鉄片1 四石 黒曜石剥片 堆積岩剥片 399 1 30 ₹1-1剥片 石核 1ス・エスキーフ リタッチドフレイク 使用痕のある剥片 3 83 出土遺物一覧表 第2表 石錐 小形精製石匙 打製石斧 黒曜石石鎌 2 11 167 10 9 23 35 17 2 土器片 I -2 J · K -0 · 1 I -1 I -4 I -4 G · H -2 G -2 C -1 · 2 大番 I -2 

第2表 出土遺物一覧表(2)

位置	工器片 打	打製石斧	黒曜石石鏃 /	黒曜石石鏃 小形精製石匙	石錐	L°17.17‡-1	19971 7619	ピ1ス・1スキー1   リタッチドフレイク   使用痕のある剥片	片   石核	チャート剥片	黒曜石剥片	堆積岩剥片	凹石	〇その他
	2					1								
	1		1						5	2	S		T	
	က										4			
									I					
	8										2			ALANA MARKATANA
		П												
											I			
	2													
			1											
									I					
	2										4		-	
	က										2			
											П			
	1										2			
				I							Т		<b>A</b>	鉄製品1
	2								1		I			
										П	T			
									-					
H-1													T	
	9								1		3			
	1													
	1													
									-		1			
	2								-					The state of the s
											П			
	1													
			1						1		1		置	黒曜石石鏃は未製品
	4													
	4												鉄	鉄製品(ヤスリ)1
	3													
	-													
	28							*	12		12	ı		
	3						1		2		-			
	377	4	15	-	4	-	9	177	7 7	-	490	9	8	



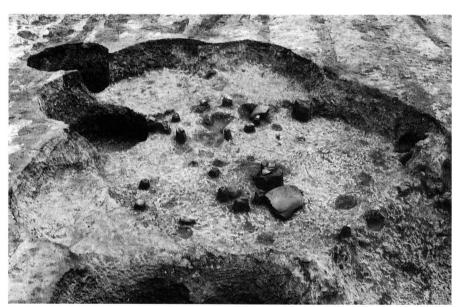
(1) 調査区全景(東から)



(2) 調査区全景 (西から)



(1) 1 号住居址遺物出土状態 (南から)



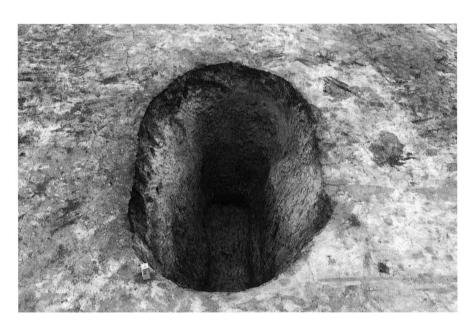
(2) 1号住居址遺物出土状態 (北から)



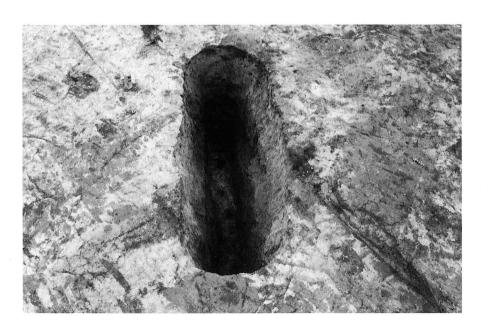
(3) 1号住居址完掘状態 (南西から)



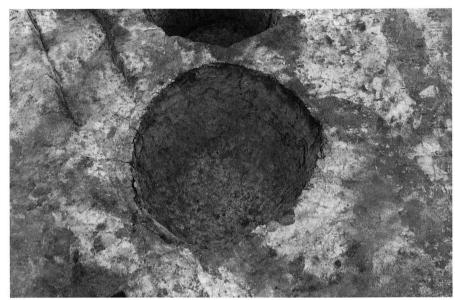
(1) 1号土坑遺物出土状態 (北から)



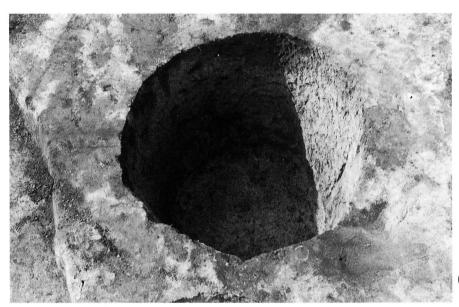
(2) 2 号土坑完掘状態 (西から)



(3) 3 号土坑完掘状態 (南西から)



(1) 4号土坑完掘状態 (南から)



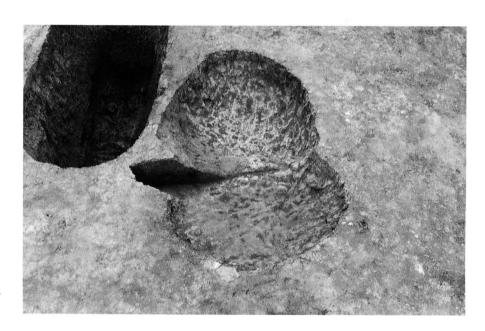
(2) 5 号土坑完掘状態 (南から)



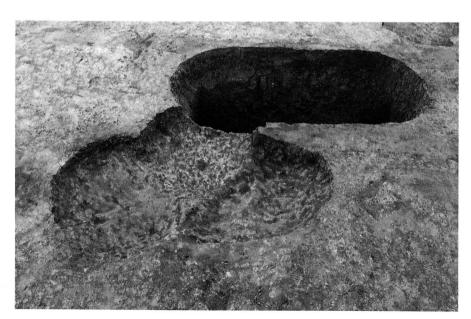
(3) 6 号土坑完掘状態 (南から)



(1) 7 号土坑完掘状態 (南から)



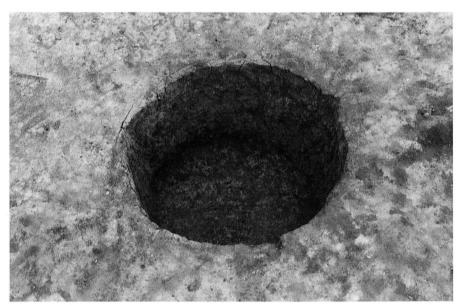
(2) 9 (手前)·13(奥)号土 坑完掘状態(南から)



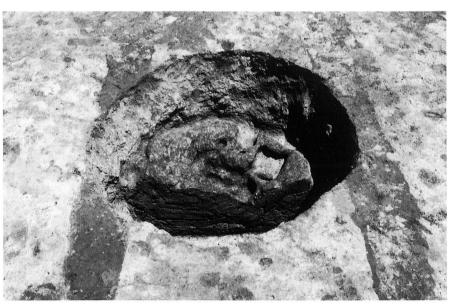
(3) 9 (左)・8 (中)・ 13(右)号土坑完掘状 態(東から)



(1) 10・11号土坑完掘状態 (南から)



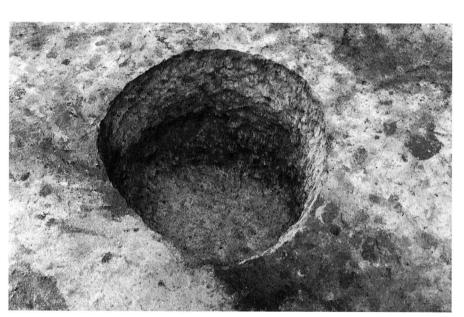
(2) 12号土坑完掘状態 (南から)



(3) 14号土坑焼土範囲 (南から)



(1) 14号土坑完掘状態 (南西から)



(2) 15号土坑完掘状態 (南西から)



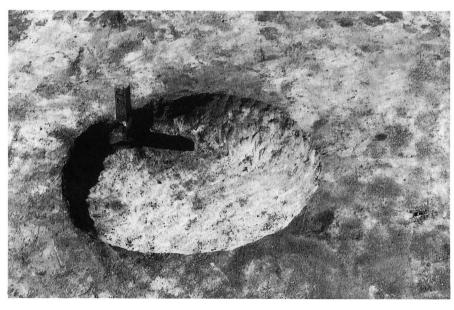
(3) 16(左)・31(右)号土坑 完掘状態(南から)



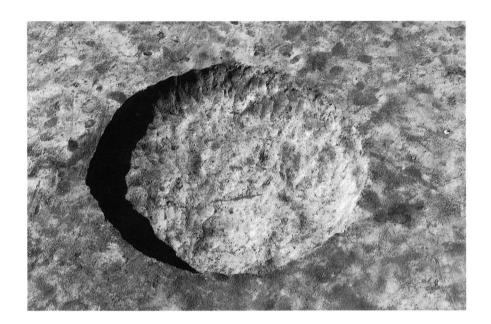
(1) 17号土坑完掘状態 (南から)



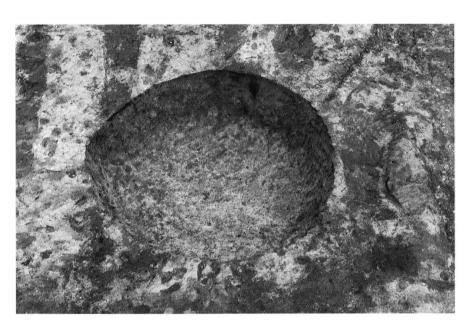
(2) 18号土坑完掘状態 (南から)



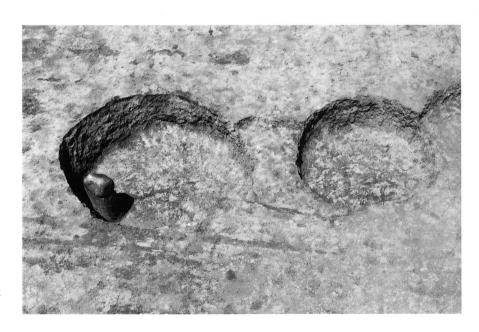
(3) 27号土坑完掘状態 (南東から)



(1) 28号土坑完掘状態 (南から)



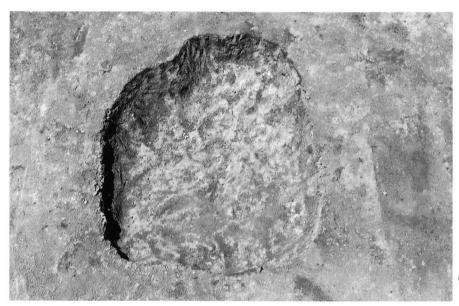
(2) 30号土坑完掘状態 (南から)



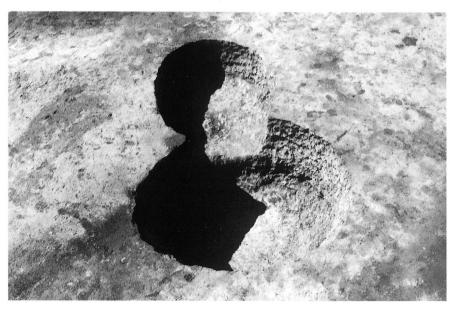
(3) 32(左)・33(中)・ 34(右)号土坑完掘状 態(東から)



(1) 35号土坑完掘状態 (南から)

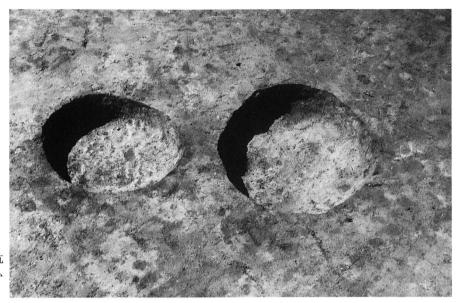


(2) 36号土坑完掘状態 (南から)

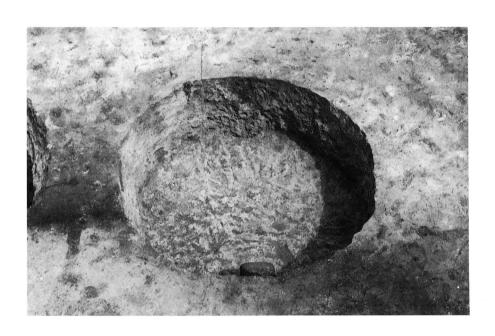


(3) 37号土坑 (奥)·15号土坑 (手前) 完掘状態 (南東 から)

### 図版Ⅱ



(1) 38号土坑(左)・39号土坑 (右) 完掘状態(南東から)



(2) 40号土坑完掘状態 (西から)



(3) 41(左)・42(右)号土坑 完掘状態(南西から)



(1) 45号土坑(左)・44号土坑(右) 完掘状態(北から)



(2) 47号土坑完掘状態 (南から)



(3) 独立土器半截 (北東から)

## 鹿垣遺跡

1 位 置 茅野市泉野 5 7 3 3 他

2 調査理由 担い手育成基盤整備事業茅野東部地区に伴う発掘調査

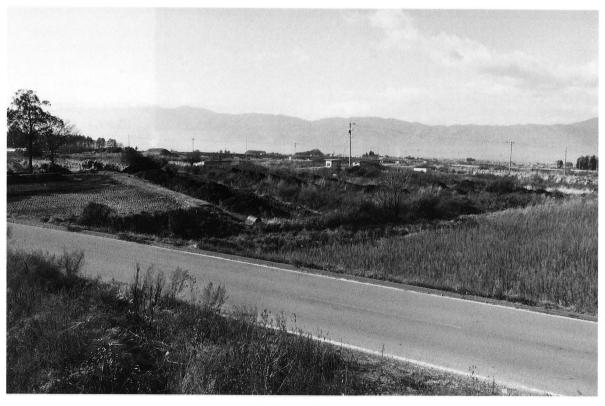
3 調査方法 重機を用いたトレンチ法

**4 調査期間** 平成 9 年11月10日~11月11日

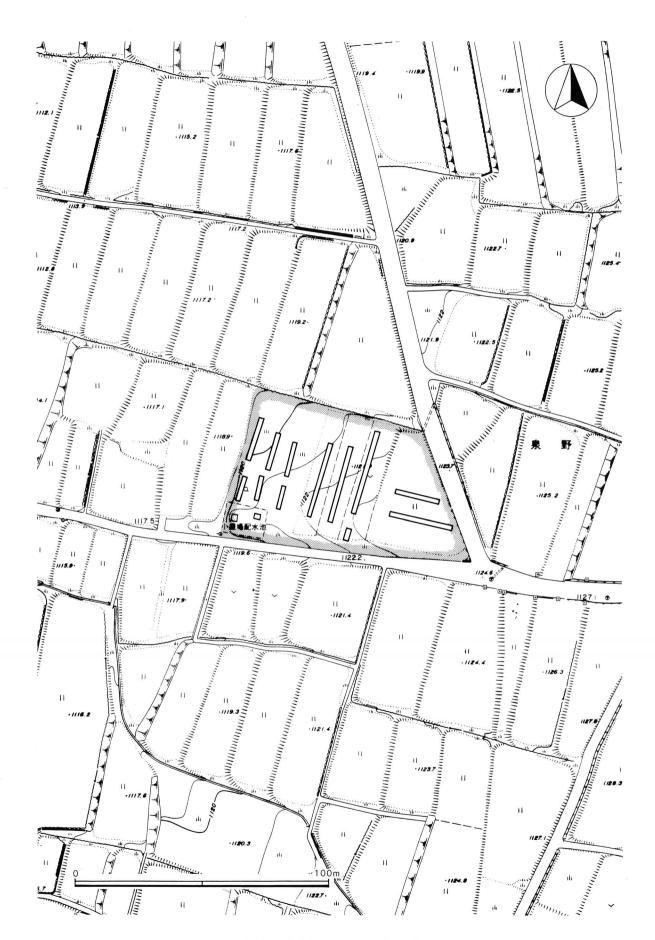
#### 5 調査結果と所見及び処置

遺跡地と考えられる範囲約4,000㎡に対し11トレンチ(442㎡)を発掘した結果、遺構は検出されず、縄文中期とみられる土器小片が1片出土したのみに終わった。遺跡の現状は、東の水田部分が現地表面より50cm以上削られ旧地形は残っていない。これより西の部分は旧地形を残すものの尾根の頂部付近はローム層まで削られている。北側の谷部は礫を大量に包含する地形となっている。

『茅野市史 上巻』によれば鹿垣遺跡からは「縄文時代中期の勝坂式土器片・石鏃・打製石斧・凹石が採集」されている。上記の様に遺跡の遺存状況は良くないが、この調査で確認された遺跡の希薄さは、後世の撹乱作用によるものではなく遺跡の性格によるものと考える。なお、鹿垣遺跡の取り扱いについては、平成9年11月17日の保護協議(長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、茅野市土地改良課、茅野市教育委員会文化財課の四者会議)において結果が報告され、今回の発掘にて調査終了とすることが確認されている。



鹿垣遺跡(北東から)



鹿垣遺跡トレンチ配置図(1/1,500)

## 報告書抄録

				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	-				
ふりがな	ひしおね!	いせき・しし	がきいせき	<u> </u>					
書、名	名 鹿尾根遺跡	跡・鹿垣遺跡							
副書名	名 平成9年	<b>度担い手育成</b>	基盤整備	事業茅里	野東部	地区発掘調金	<b>奎</b> 報台	告書	
巻 ~	欠								
シリーズ名	3								
シリーズ番号	3								
編著者名	3 小林深志	・小林健治							
編集機関	茅野市教	育委員会							
所 在 均	也 〒391-850	)1 長野県茅!	野市塚原二	二丁目(	3番1	号 Tel C	266-	-72-210	1
発行年月日	西暦 199	98年 3月 25	5日						
ふりがな	ふりがっ	なコー	- ド	北緯	東経	調査期間	調金	查面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 5	也市町村	遺跡番号	707年	水心			m²	期 且 尿 凶
ししおね 鹿尾根	ちのしいずる の 長野県茅野ī		314	35度 59分 6秒	138 度 14分	19970519 ~ 19980707	1	500 m²	担い手育成 基盤整備事 業基販車第
	泉野	13 20214	314	01/9	20秒		1,	500 m²	業茅野東部地区に伴う
ししがき 鹿垣	ちのしいずる の	20214	169	35度 59分	138 度	19971110		442 m²	発掘調査
110-11	長野県茅野市 泉野5733他		100	49秒	14分 42秒				
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な	遺	構	主な遺	物	特	記事項
鹿尾根	集落址	縄文時代	竪穴住居	5址 <b>1</b> 車 48基		────── 縄文時中期 <u>-</u> 石器	上器		
鹿垣	散布地	縄文時代	上売	102		祖文時代中其 葉の土器・7		発掘紅査終了	告果により調

## 鹿尾根遺跡・鹿垣遺跡

一平成9年度担い手育成基盤整備事業茅野東部地区に係る発掘調査報告書

平成10年3月20日 印刷 平成10年3月25日 発行

編集 茅野市教育委員会

発行 茅野市教育委員会

長野県茅野市塚原2丁目6番地1号 (0266)72-2101(代)

印刷 有限会社 森仙印刷所

長野県茅野市本町西3-1 (0266)72-2259

